

主体的に英語で自分の考えや気持ちを伝え合う授業を目指して

－ 3つの対話活動を取り入れた単元構成を通して－

登米市立浅水小学校 及川 史子

1 授業づくりに関わる課題

本校では、平成30年度から「外国語・外国語活動」に校内研究として取り組んでおり、令和元年度は、低学年12時間、中学年35時間、高学年70時間の授業を実施した。また、週1回ALTが来校し、担任とともに児童の英語によるコミュニケーション能力を高める授業を行っている。児童は分からない言葉を推測しながら聞き、理解しようとする力が付いてきているが、実際に話す場面では、間違えることを恐れ、慎重になりすぎる姿が見られる。また、相手に伝わるように工夫して話すことや、相手の話す内容に対して的確に反応することができない児童も多く、相手意識を高めることも課題である。

2 研究の目的と方法

主体的に自分の考えや気持ちを伝え合う授業を行うには、児童がやってみたいと思える言語活動を、単元のゴールに設定し、段階的に配置する単元構成が大切である。単元の中に、3つの対話活動を効果的に取り入れることで、児童の伝え合う力を育成していくことができると考える。3つの対話活動とは「教師と児童の対話」「児童と児童の対話」「自己との対話」である。対話活動を単元の中に計画的に取り入れ、児童が慣れ親しんだ英語表現を活用することを通して、主体的に自分の考えや気持ちを伝え合う授業づくりを目指す。

(1) 教師と児童の対話

（Small Talk を活用した発話モデルの提示）

授業の初めにALTと教師、又は教師と児童の会話を聞かせ、対話を続けるための基本的な表現（繰り返し、確かめなど）に触れさせる。実際に体験させてイメージを持たせ、相手の話した内容に対してコミュニケーションに必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）を意識させる。

(2) 児童と児童の対話

（児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定）

児童の実態を踏まえ、児童が「言いたい」「伝えたい」という言語活動を考える。その際、児童同士のやり取りの場面を段階的に設定し、聞くことを通して慣れ親しんだ英語表現（既習表現、新出表現）を、目的や場面に合わせて活用しながら定着させる。

(3) 自己との対話

（単元の見通しが持て、振り返りができる「学習カード」の活用）

単元の学習の流れと言語活動の積み重ねを児童と教師で共有できる「学習カード」を活用し、見通しを持って取り組ませる。また、自己の学習の振り返りをさせ、何ができるようになったか、次に何を身に付けるべきかを明確にして、次時の学習へつなげる。

3 1期の取組

【単元名 Unit2 When is your birthday?】
（東京書籍 NEW HORIZON Elementary 5）

(1) 単元の構成

時	主たる学習内容
1	Starting Out 誕生日や欲しいものなどについて短い話を聞く。
2	【Let's Watch and Think】 月や日付などの単語を学習し、小文字の読み方（発音）も復習する。 【Over the Horizon】 「Do you Know?」の活動を通して、月の言い方に慣れる。
3	Your Turn 【Let's Listen1】 音声聞いて、登場人物の誕生日や欲しいものを理解する。 【Let's Try2】 友達の誕生日を尋ねる。 [児童と児童の対話]
4 本時	【Let's Try3】 友達と誕生日に欲しいものや、好きなものを尋ね合う。 ○ 友達へ贈る「ミニサンキューカード」の内容をどのようにするか考える。 ○ 誕生日に欲しいものや好きなものについて尋ねる。 [児童と児童の対話]
5	○ 集めた情報を基に、「ミニサンキューカード」を作成し、友達へ贈る。
6	Enjoy Communication ○ 先生方に贈る「サンキューカード」の内容を決め、インタビューをする。
7	○ 「サンキューカード」を先生方へ贈る。
	Our Goal 先生方に「サンキューカード」をおくろう
8	【Over the Horizon】 自分の誕生月にある世界各国の行事や祝日について知り、誕生日とともに世界の行事を伝える。

各授業の導入で行う Small Talk [教師と児童の対話]、導入と終末で活用する学習カード [自己との対話] は毎時間設定する。

(2) 具体的な手立て

① 教師と児童の対話

（Small Talk を活用した発話モデルの提示）

導入でALTと教師が聞き慣れ親しんだ基本表現
When is your birthday? What do you want for your birthday? を活用した Small Talk を行った。教師のモデル会話を聞いて、相手を意識して話したり、聞いたりすることができるようにした。また、話すことへの抵抗感をなくしていくために、児童と教師の対話の場面で、児童を褒めたり、励ましたりした。

② 児童と児童の対話

（児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定）

単元のゴール「先生方にサンキューカードをおくろう」の前の活動として、友達に「ミニサンキューカードをおくる」活動を取り入れ、基本表現を活用しながら定着を図るようにした。また、友達の欲しいものがたくさん詰まった「サンキューカード」にするために、What do you want? What do you like? などの表現をたくさん使う場面を設定し、意欲的にやり取りができるようにした。

③ 自己との対話

（単元の見通しを持ち、振り返りができる「学習カード」の活用）

導入の段階では、学習への意欲を持たせるために、前時までの学習と自身の課題を学習カードで確認させ、本時のめあてと活動内容を提示した。終末の段階では、本時のめあてに対して自身の学習はどうだったかを振り返らせ、学習カードに書かせ、学習の積み重ねを意識させた。また、相手を意識して対話ができるよう、コミュニケーションの際に必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）のチェックもできるようにした。

(3) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

① 教師と児童の対話

（Small Talk を活用した発話モデルの提示）

- ALTと教師との発話モデルを見せたことで児童は対話のイメージを持ち、その後の教師と児童の対話の場面で、聞かれたことに対してスムーズに答えることができた。
- 教師が児童一人一人と対話をしている間、他の児童を待たせている時間ができてしまった。児童と教師の1対1の対話を他の児童にも聞かせるようにしたり、児童同士で対話の練習をしたりするなど待つ時間の工夫が必要だった。
- 言語活動の際に、基本表現を使ってやり取りは行っていたが、コミュニケーションに必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）の意識を高めることができなかった。

② 児童と児童の対話

（児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定）

- 「友達の欲しいものがたくさん詰まったミニサンキューカードを作る」という言語活動を設

定したことによって、意欲的に基本表現を使ってやり取りする姿が見られた。

- 言語活動の場면을段階的に設定したことで、単元のゴールの活動では、先生の欲しいものや好きなものについて、更に詳しく尋ねようと既習表現を活用する姿が見られ、思考力・判断力・表現力等の高まりが感じられた。
- 校内の教師が行った評価の記録を見ると、知識・技能、思考・判断・表現の観点で、Bと評価される児童よりAと評価される児童の方が多かった。多くの児童が基本表現や既習表現を活用して、インタビューしていたことが分かった。
- 繰り返しの練習の場面では、基本表現を大きな声で言えるようになってきたが、実際に児童同士でのやり取りになると不安になり、教師を頼る場面が多々見られた。ゴールの言語活動の前に、グループで教え合う場面を設定するなど、段階を踏んで児童同士のやり取りをさせる必要があった。
- ③ 自己との対話
（単元の見通しを持ち、振り返りができる「学習カード」の活用）
 - 本時のめあてや単元のゴールを児童と確認し、学習カードに記入させたことで、児童はゴールまでの学習過程を見通しながら意欲的に取り組むことができた。
 - 導入で前時の振り返りを行ったことで、自分のできたところ、できなかったところを再確認して本時の活動に取り組ませることができた。また、児童の振り返りの記述から、前時まで言えなかった表現が本時で言えるようになったことが分かるなど、学習カードを有効に活用することができた。
 - 振り返りの記入では、一単位時間の中での自己の成長や、学習での気づきについて書いている児童が少なかった。
 - 授業終末の場面で、教師・児童とも日本語でのやり取りが多く、英語から離れてしまったように感じた。振り返りを記入させる前に、本時で活用した基本表現をもう一度声に出して確認するなど、基本表現により多く触れさせていきたい。

4 II 期の実践の取組について

【単元名 Unit5 Where is the post office?】
（東京書籍 NEW HORIZON Elementary 5）

(1) 単元の構成

時	主たる学習内容
1	Starting Out 道案内のやり取りを聞き、行き方を尋ねたり、答えたりする表現を知る。 【Let's Chant】 チャンツをしながら動作で表現し、語句や表現のイメージを持つ。
2	【Let's Try1・2】 音声を読み、物の位置を表す表現の使い方を知る。 【Let's Watch and Think】 場所を表す外国の記号についての動画を視聴し、ど

	この場所を表しているのか考える。
3	【Your Turn】 ○ ジェスチャーゲームをしながら、位置を表す語句 by, in, on, under のイメージを持つ。 【Let's Listen1】 部屋の中にある物を、話を聞いて見付ける。 【Sounds and Letters】
4	【Let's Try3】 探し物がどこにあるのか尋ね合う。 ○ 「もの探しゲーム」を行う。by, in, on, under を活用する。 [児童と児童の対話]
5	○ 教師の道案内の説明を聞き、どこの場所へ案内しているのか地図上に線を引く。 ○ 上記の活動を、グループで作成したドリームタウンの地図を使用して行う。 [児童と児童の対話] 【Sounds and Letters】
6 本時	○ ドリームタウンの地図を活用し 【Let's Try4】 のように、道案内の役割演技をする。 ○ ペアで道案内し合う。 [児童と児童の対話]
7	【Enjoy Communication】 ○ グループごとに地図を活用し、友達の行きたいドリームタウン内の場所へ道案内をする。
8	Our Goal 友達にドリームタウンを道案内しよう [児童と児童の対話]

授業の導入で行う Small Talk[教師と児童の対話]、導入と終末で活用する学習カード[自己との対話]は毎時間設定する。

(2) 具体的な手立て

① 教師と児童の対話

(Small Talk を活用した発話モデルの提示)

コミュニケーションに必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）を児童に意識させるため、A L T と教師の Small Talk の際に、コミュニケーションカードを活用し、教師の反応に合わせて児童も一緒に反応させた。また、児童同士の対話の際にやり取りを続けることができるよう、教師と児童の対話の場面で、教師が児童の言葉を繰り返したり、褒めたり、励ましたりして見本を見せた。

② 児童と児童の対話

(児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定)

児童が「言いたい」「伝えたい」と興味・関心を持って活動に臨めるよう、本時の活動までに児童に建物や施設の絵をカードに描かせ、ドリームタウン内の好きな場所にカードを設置できるようにし、グループで相談させた。また、児童が安心して英語を話す環境にするため、サポート役を入れ、教え合いながら基本表現を定着させるようにした。

③ 自己との対話

(単元の見通しを持ち、振り返りができる「学習カード」の活用)

児童が毎時間の学習に目的意識を持ち、学習の積み重ねや自己の成長を感じることができるよう

学習カードを改善した。また、相手を意識して対話ができるよう、コミュニケーションの際に必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）をチェックし、意識させた。

(3) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

① 教師と児童の対話

(Small Talk を活用した発話モデルの提示)

- A L T と教師の話聞かせる際、会話の流れに合わせて児童にも、A L T の会話に合わせて教師と一緒に「Good!」などの反応をするよう促し、一緒に発話させたことで、どのような時にどのような反応を表したら良いのかを全員で確認することができた。
- A L T と児童とのやり取りでは、児童が選んだ建物名や施設名を、会話を聞いている児童たちにも繰り返し声に出させたことで、語句の定着を図ることができた。

● 道案内の場面では、互いに地図に注目してしまい、コミュニケーションの際に必要な項目（笑顔で、目を見て、はっきりと、反応は）について、具体的に意識することが難しかった。コミュニケーションで必要な反応が、自然に対話の中に生きてくるまでには引き続き継続的に指導する必要がある。

② 児童と児童の対話

(児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定)

- 自分たちの「ドリームタウン」をつくり、道案内をするという設定は、児童の興味・関心を高めた。グループごとに建物や施設を設置する際には、設置理由を考え、グループの中で意欲的に建物や施設の場所を案内し合う姿が見られた。
- グループでの活動では、案内する側とされる側の他に、サポート役（サポーター）を付けたことで、A L T や教師に一つ一つ確認する姿がなくなり、言葉に詰まったときには、サポーターに確認しながら自信を持って道案内をしていた（図1）。学習カードの振り返りからもその様子がうかがえた（図2）。



図1 グループでの活動（道案内の練習）

- ・ぼくが分からなかったとき〇〇君が教えてくれた。
- ・〇〇君と〇〇ちゃんと一緒に道案内をすることができて嬉しかった。
- ・英語が言えなくてつまずいたけれど、友達が教えてくれたので、道案内ができた。

図2 学習カードの振り返り

○ 単元のゴールの前に、グループ内で道案内の活動を設定したことで、児童が安心して発話の練習に取り組むことができた。ゴールでの道案内を成功させるために、案内の仕方や基本表現の使い方をグループのみんなで確認し合ったり、複雑な表現や間違えた表現を繰り返し練習したりする姿が見られた。

● サポーターがいたことで、安心して道案内ができていたが、いざ一人で道案内をするになると不安になり、分かっていても誰かに確認しながらやり取りを進める児童がいた。間違えてもいいという雰囲気づくりと励ましが必要である。

③ 自己との対話

（単元の見通しを持ち、振り返りができる「学習カード」の活用）

○ 毎時間の学習の積み重ねが一目で分かるカード（図3）にしたことで、ゴールを意識した振り返りをするようになった（図4）。

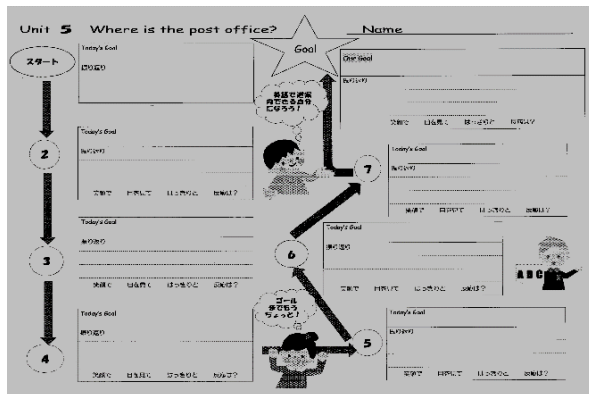


図3 II期実践で使用した学習カード

- ・友達を道案内するまであと少しだから、もっとしっかり覚えていきたい。
- ・次がゴールだから、さらにもっとレベルアップした道案内をしたい。
- ・スタートの頃と比べると自分が大きく変わったと思った。話せるようになってとても楽しい。

図4 学習カードの振り返り

5 まとめ

(1) 研究の成果

① 教師と児童の対話

（Small Talk を活用した発話モデルの提示）

既習表現を活用した Small Talk を毎時間の導入で行うことで、対話を続けるための基本的な表現に触れさせることができたとともに、語句の定着にもつながった。教師と児童との対話の場面では、褒めたり励ましたりしたことによって、英語を話すことに自信を付けさせることができた。

② 児童と児童の対話

（児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定）

目的や場面、状況を明確にした言語活動を設定したことで、児童の「話したい」「伝えたい」という意欲につながった。また、言語活動の場面を段階的に設定したり、グループで学び合う時間を設定したりしたことで、語句や表現の定着が図られ、児童が自信を持って英語を話すことができたと考える。

③ 自己との対話

（単元の見通しを持ち、振り返りができる「学習カード」の活用）

学習カードを活用することで、児童はゴールまでの過程を見通しながら取り組むことができた。また、授業の終末で、自己の成長や課題を具体的に振り返らせることで、次時の学習で意識すべきことを明確にして活動に取り組むことができた。

(2) 今後の課題

「教師と児童の対話」の場面では、相手を意識して、「対話を続けるための基本的な表現」が自然に出てくるよう、授業初めの Small Talk の対話の内容を工夫し、児童同士のやり取りの中や、実際の場で活用できるものにしていきたい。

「児童と児童の対話」の場面では、英語表現を単元のゴールで自信を持って活用させるため、段階的に言語活動の場を設定する必要がある。その際、間違いを恐れずに挑戦している児童を褒めたり、モデルにしたりするなどして、完璧な英語でなくても、自分の思いや考えを相手に伝えるという姿勢が大切であることを伝えていきたい。

「自己との対話の場面」では、自己評価だけでなく、友達と行う相互評価も取り入れるなど、学習カードの内容を更に工夫していく必要がある。

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料，2020
- 2) 文部科学省：小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック，2017

【図表等の許諾について】

図1は授業実践の中で、道案内の練習をしている写真である。図2と図4は、授業の中で児童が学習カードに記入した感想の一部である。児童の名前を伏せて活用することとし、写真については児童の保護者から使用許諾を得ている。